

新緑の多摩川源流へ 唐松尾山～笠取山

実施日 2016年6月11日(土)～12日(日)
 天候 1日目・2日目共 晴
 リーダー 白石 恵美子
 参加者 島本陳重、白石恵美子、石附智恵、宇野輝代、峯川弘子 計5名
 費用 JR 2,288円(高尾起算) 車2,090円 870円
 宿泊費(素泊)4,500円 テント1,000円
 タイム 6/11 塩山駅(9:15)三ノ瀬(10:05～10:27)休憩(12:30～13:00昼食)将監小屋(13:20) 泊
 6/12 将監小屋(5:43)将監峠(5:51)山ノ神土(6:16)西御殿岩分岐(8:15)唐松尾山(8:35～8:55)水干(10:20)笠取山東の山頂(10:40～11:16)西の山頂(11:22)雁峠分岐(11:38)小さな分水嶺(11:49～11:55)雁峠(12:00)新地平BS(14:05～14:43)

6/11 今回は天気予報が前日の午前中までずっと雨マークで、さんざん悩んだ末に、予報が良い方に転ぶことを願って、行くことに決めた。

金曜の午後には願いどおり晴れマークになった。塩山駅からタクシーで三ノ瀬へ。

降りるとすぐに将監峠の登山口がある。歩きやすい林道を30分程進むと、「牛王院平」と書かれた標識が左を指していたので、あまり疑いもせず曲がってしまったが、少し歩いてから地図を確認すると、



その道は将監小屋に行く道ではなく、牛王院平を経て将監峠に行く七ツ石尾根だと気付く。が、その道でも時間も大して変わらないし、小屋についてからその辺りの散策をすることも考えていたので、順番が逆になるが、将

監小屋には行けるので、まあいいかということそのままで進む。

ヤマツヅ、山名のとおり、新緑のカラマツの原生林が素晴らしい。奥秩父でも唐松尾山付近でしか見られないとのことだ。

紅葉の時期も綺麗だろう。10分位で、また左に分ける道があり、どっちに行こうか悩んで、右に行ったらどんどん下って行きそうになったので、元の分岐に戻り、

ちょうど走り下りて来た男性に聞くと、「この先に『将監峠』と書かれた汚い標識がある」と言うので、左の道を行く(結局どちらの道

でも小屋には着けたのだが)。広々とした草原が広がる牛王院平と思われる辺りで昼食を取



り、更に進むと「将監峠」と書かれた朽ちかけた木の札がある。そこから10分足らずで将監小屋に着く。皆で持ち寄ったアルファ米やおかずで宴会から引き続き夕食へと突入し、早めに寝る。

6/12 朝早めに、と言っても泊り客の中では最後だったが、小屋を出て将監峠へと登り始める。朝の空気も爽やかで心地よい高原のお散歩だ。鶯の「ケキョケキョ」と「ホホキョ」の掛け合いが面白い。昨日歩いた防火帯の広い道にはズミ(林檎科の木)の白い花が満開だ。



左に三ノ瀬方面への道を分ける。更に一登りで山の神土に着く。そこを過ぎると鹿の足跡が散見された。しばらくはカラマツの林を登り、本当はガレ場の上を巻いて行

くべきだったのだが、標識もポイントもなく、道が不明瞭だったため、間違っ直登して上の尾根に出てしまい、その先で道がなくなり、藪漕ぎをして結局、西御殿岩の真下に出た。富士山や南アルプスが望めた。



そこからも道がなく進めなくなり、少し戻り、登山道らしき道があったので、そこを下ると正規のルートから西御殿岩に登る分岐に着いた。

45分程ロスをした。ここまでが大変だったので、唐松尾山の山頂に着いた時はホッとして感激もひとしおだった。また今日はIさんの41(?)回目の誕生日だったので、皆で三角点を囲んで♪Happy Birthday to you♪を歌う。

「今日の山は記憶に残る山になりますね」と口々に言いながら、笠取山へと続く縦走路を西に向かって出発。

原生林の中を尾根通しに進む。下は苔むしており、道はジャクガのトンネルのようで、遅咲きのジャクガが少し残ってはいたが1週間程早く来れば満開だっただろうとちょっと残念。

いくつか小ピークを越え、黒槐山は巻く。途中の富士山、白樺林に元気をもらう。地図上で笠取山の真南に位置する水干にほぼ時間通りに着く。そこから露岩とジャクガに導かれて笠取山に着く。

三角点のある西の山頂は狭いが富士山が真正面に見える。そこで昼食を済ませ、細い尾根筋を東へ少し下った、山梨百名山の標柱が立



つ東の山頂は、展望が開けている。ここから雁峠へ向かって急な道を下る。上部の急坂を過ぎると笹原の広々とした斜面になる。

ピークを一つ登り返すと、左に水干からの道が合わさる。この辺は草原が広がり気持ちが良い。カラマツ林を抜け雁峠分岐を過ぎ



ると、クリソウが咲いている。小さな分水嶺の碑にちょっと立ち寄ってから雁峠山荘を右に見て雁峠に着く。

雁峠から草原を抜け、笹の中をジグザグに折り返し、沢の源流部に出る。沢を数回渡り返しながらかると流れは段々大きくなりしばらく左岸を辿る。沢を右に見ながら延々と新地平へとほぼ平坦な林道を行く。



約2時間で国道140号に出、左直ぐのところに新地平バス停がある。

今回の山行は道を間違えて藪漕ぎをして大変でしたが、参加された皆さん、未熟なリーダーをサポートして下さり、ありがとうございました。

唐松尾山の名のとおり、新緑のカラマツなどの原生林を堪能でき、思い出深い山行になったのなら幸いです。紅葉の時期に訪れるのもいいかなと思います。これに懲りずにまたご一緒に歩いていただければ嬉しいです。最後に、今回の反省としては、少しでもおかしいと思ったら地図を確認し、下調べももっとしなくてはということです。なんか毎回同じような反省をされていて学習してないとお叱りを受けそうですが・・・。

(記&写真・白石恵美子)